

水稲栽培において、農業用ドローン（農業用マルチローター）を用いて、自己拡散型の一発処理除草剤を散布する方法を開発し、マニュアルを作成しました。

研究成果の概要

1 背景・目的

自己拡散型粒剤の一つである「豆つぶ剤」（写真1）は水面を自ら動き回り、除草成分を拡散するため、水田全体に均一に散布する必要がなく、散布量も250g/10aと少ないことから、効率的に作業できます。

農薬散布作業のさらなる省力化を目的に、農業用ドローンを用いた「豆つぶ剤」の水稲一発処理除草剤（田植え後に散布する除草剤）の効率的な散布方法を開発しました。



写真1 豆つぶ剤の形状 (クミアイ化学工業(株)提供)

2 内容

- 農業用ドローンで農薬散布を行う際の手続きと豆つぶ剤散布時の機体の設定方法を記載したマニュアルを作成し、農林総合研究所のホームページ上で公開しました（図1、右のQRコード）。
- 農業用ドローンを用いた散布は、手散布に比べて作業時間を78～80%削減することができます（図2）。

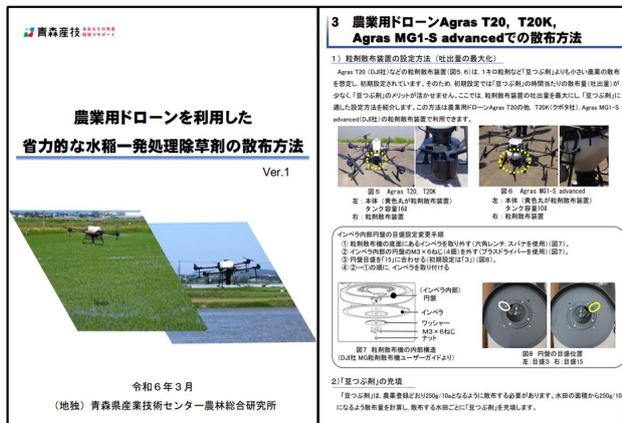


図1 農業用ドローンを利用した省力的な水稲一発処理除草剤の散布方法

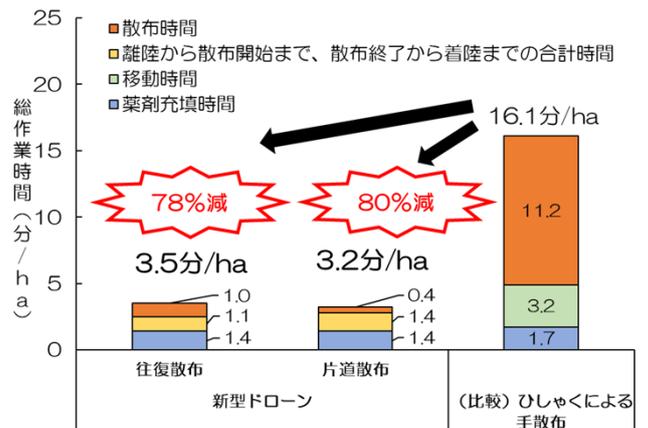


図2 作業時間

3 活用等

農業用ドローンによる省力的な除草散布により、軽労化や圃場毎の適切な時期における防除が容易となり、米の生産性の向上につながることを期待されます。

関連情報

- 農業用ドローンで農薬を散布する際は、「無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン（右のQRコード）」を必ず読むようにしてください。
- 農林総合研究所では農業用ドローンを用いた農薬散布の他、肥料散布や播種作業の試験にも取り組んでいます。

